

IV 子どもの生きる力をはぐくむ

(1) 学校教育の振興

事業番号	事業名	担当課	事業概要	25年度実績	22年度から25年度までの実績への評価	4年間（22年度から25年度）の事業総括
1104	人権教育	人権政策課	区立学校における授業や課外活動、人権オープンスクール、また、児童館、青少年プラザ、社会教育館等の事業を通して、人権尊重の理念を定着させ、同和問題や男女平等などの人権教育を推進する。	人権オープンスクール（小・中学校各1回） 小・中学校生人権啓発標語作品展（区立小・中学校全校9,293人参加） このほか、人権擁護委員が人権教室などの啓発活動を実施した。	3（ある程度達成した）	小・中学生の人権意識の高揚、啓発につなげることができた。
1104	人権教育	教育指導課	区立学校における授業や課外活動、人権オープンスクール、また、児童館、青少年プラザ、社会教育館等の事業を通して、人権尊重の理念を定着させ、同和問題や男女平等などの人権教育を推進する。	・人権教育推進委員会を5回開催し、eラーニングによる人権教育研修の内容の検討を行うとともに、区内全教員に悉皆研修を実施した。 ・eラーニング研修の受講や人権尊重教育推進校第四中学校・中目黒小学校作成のリーフレットの配布を通して、各学校の人権教育の充実を図った。	3（ある程度達成した）	人権教育のeラーニングシステムを構築することで、人権尊重教育推進校の教員はもとより、全教員が人権教育について研修することができた。
1104	人権教育	生涯学習課	区立学校における授業や課外活動、人権オープンスクール、また、児童館、青少年プラザ、社会教育館等の事業を通して、人権尊重の理念を定着させ、同和問題や男女平等などの人権教育を推進する。	『音楽史を彩る女性たち』、『ソーシャルメディアとスマートフォンの時代に生きる私達が知っておきたいこと』、『南アジア～人々の生活をめぐる今』、『ボクは女の子、ワタシは男の子～「性のあたりまえ」をうたがってみよう～』、『今こそ知りたい！～子どもを守るために大人のすべきこと』、『知ってびっくり！グリム童話の深層～メルヘンから考える人権』の6講座（22回）を実施した。参加者計129人	3（ある程度達成した）	毎年様々な人権問題をとり上げた講座を実施するよう事業調整会議を行い調整した。
1105	スクールカウンセラーの区立学校派遣	めぐろ学校サポートセンター	いじめ、不登校等の問題を解決するため、学校、保護者、教育委員会、民生・児童委員、主任児童委員が連携した一体的な対応の拡充を図る。また、心の悩みや不安にこたえるため、「スクールカウンセラー」を配置する。（区立小学校へは区が派遣。区立中学校へは都が派遣。）	区立全小・中学校へ都・区のスクールカウンセラーを週2日以上派遣したほか、緊急時には学校長の要請に基づき、派遣を行った。 スクールカウンセラーの延べ相談件数 小学校 17,051件 中学校 7,060件	3（ある程度達成した）	平成25年度には、東京都が全公立学校へスクールカウンセラーの週1日派遣を開始したが、区では独自のスクールカウンセラーを全区立小・中学校に週1日以上派遣し、学校における教育相談機能の拡充に努めた。しかし、PTAや学校等から派遣回数・時間数増の強い要望があり、引き続き学校における教育相談機能の拡充への支援が必要である。
1106	スクールソーシャルワーカー（SSW）の設置	めぐろ学校サポートセンター	スクールソーシャルワーカーを区立学校に派遣し、子どもを取り巻く様々な環境などに起因した、不登校等の課題に関し、スクールカウンセラーや福祉も含めた関係機関と連携しながら解決を図る。	平成22年10月から設置したスクールソーシャルワーカーを継続配置した。不登校が深刻化しているなど、困難な問題を抱える児童・生徒に対し、学校や家庭、関係機関との連携を図りながら関わることで、学習支援教室（めぐろエミール）の入級につながるなど成果があがっている。	3（ある程度達成した）	スクールソーシャルワーカーを派遣し、困難な問題を抱える児童・生徒への福祉的な側面からの支援により、不登校などの問題解決に繋がる対応と体制ができつつある。しかし、複雑な家庭事情や、より困難なケースも見受けられることから他機関との連携強化を一層図ることが必要がある。
1107	長期欠席児童・生徒への学習支援	めぐろ学校サポートセンター	長期欠席の児童・生徒一人ひとりの状態に応じた指導・援助を行い、自立の力をつけ、集団生活への適応を図るとともに、学校復帰を目指す学習支援教室を運営する。また、不登校児童・生徒の自宅へ「メンタルフレンド」を派遣し、話し相手や相談相手になり、一緒に遊ぶ等のふれあいを通して自分自身を見つめさせ、人と社会とのかかわりを促すことを目的としたメンタルフレンド事業を行う。	・学習支援教室「めぐろエミール」の開室（開室日：週5日、時間：午前9時半～午後3時（水曜日は午前12時まで）） 通級児童・生徒46名 指導体制 11名 相談・学習・体験の各活動を行った。 ・メンタルフレンド11名（小学生6名・中学生5名）を対象に自宅へ派遣した。	3（ある程度達成した）	学習支援教室「めぐろエミール」への児童・生徒の入級が増える傾向にあり、引き続き事業の充実が必要である。また、メンタルフレンド事業についても連携できる大学を増やし派遣できる学生を確保していく必要がある。

事業番号	事業名	担当課	事業概要	25年度実績	22年度から25年度までの実績への評価	4年間（22年度から25年度）の事業総括
4101	少人数学習集団による指導の拡充とチーム・ティーチングの拡充（学習指導講師等の拡充）	教育指導課	少人数の学習集団をつくり、学習内容の習熟の程度に応じた指導や課題学習や発展学習を取り入れた指導を行う。また、複数の教員が協力して指導と評価を行うチーム・ティーチングを充実する。	学習指導講師 23人(小学校22人、中学校1人) 学習指導員 区立小学校 延10797時間 区立中学校 延8817時間	4（達成した）	22年度には学習指導講師の小学校全校配置を達成し、さらに25年度には中学校にも初めて学習指導講師を配置した。学習指導員の配置についても小・中学校で継続的に配置してきており、特に中学校では放課後学習や土曜日の補習教室への活用も図った。
4102	特色ある教育活動の推進	教育政策課	授業時数の拡大や指導体制の充実により、確かな学力の定着・向上を図り、魅力と活力にあふれる学校を実現し、子ども・保護者・地域から信頼される学校を目指す。「めぐろの特色ある教育活動」をより充実させるため、区独自教員の任用に向けた制度構築の検討を行う。	①25年3月に改正しためぐろ学校教育プランを基に、個に応じた学習指導や放課後学習・土曜日の補習教室等を実施し、学力の定着・向上を図った。また、ALTを活用した英語教育や、外部指導員による部活動支援、ICT環境の整備の充実を図るなど、魅力ある学校づくりに取り組んだ。	3（ある程度達成した）	児童・生徒の豊かな人間性や、自ら学び、自ら考える力など「生きる力」の育成をねらいとして、様々な施策を展開し、魅力ある学校づくりに取り組んだ。特に、中学校の小規模化については、学校の統合等により小規模化が抱える課題を解決し、多様な集団活動を生かした魅力と活力ある学校づくりを目指し、27年4月には統合新校が開校することが決定した。今後も子どもたちの「生きる力」すなわち、「知・徳・体」をはぐくむ魅力ある学校づくりに今後も引き続き取り組んでいくことが必要である。
4102	特色ある教育活動の推進	教育指導課	授業時数の拡大や指導体制の充実により、確かな学力の定着・向上を図り、魅力と活力にあふれる学校を実現し、子ども・保護者・地域から信頼される学校を目指す。「めぐろの特色ある教育活動」をより充実させるため、区独自教員の任用に向けた制度構築の検討を行う。	区独自の教員の任用に向けた検討については制度案の構築までには至らなかった。25年度から新たに中学校の英語科に1名の区独自の非常勤講師（学習指導講師）を配置した。	2（あまり達成できていない）	区独自の教員の任用に向けた検討については制度案の構築までには至らなかった。25年度には新たに中学校の英語科に1名の区独自の非常勤講師（学習指導講師）を配置した。
4103	環境教育の充実	学校運営課	区は「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」に基づき、学校教育及び社会教育における環境教育の推進に必要な施策を講ずるものとされ、各学校が「学校版めぐろグリーンアクションプログラム」を基に環境教育に取り組む。	グリーンアクションアドバイザーを小学校全校に派遣し、各校の環境教育をより充実させるとともに、より実践的な環境活動の取り組みを行った。また、取組みが特に優秀な学校及び特徴的な活動を行った学校を表彰した。	4（達成した）	生徒・教職員が一体となって取り組む省エネ・省資源活動として、18年度から取り組みを開始し、20年度からは全校で活動を実施している。また、活動状況の評価・見直しを行うことで、改善した取り組みを継続して実施している。 また、取組みが特に優秀な学校及び特徴的な活動を行った学校を表彰するとともに、24年度からアドバイザーの派遣を行い、より実践的な取り組みを行っている。
4104	自然体験・生活体験の場の充実	教育指導課	子どもたちが校外での豊かな環境の中で自然体験や宿泊体験を拡充するため、これまで実施してきた教育課程内・外の類似事業を整理し、区立の小学校4年生から中学校1年生までの毎年、「自然宿泊体験教室事業」を実施する。	小学校興津自然宿泊体験教室を4年生21校、6年生20校で実施。 （4年生1校と6年生2校はハヶ岳で実施） 小学校特別支援学級4校合同のハヶ岳自然宿泊体験教室を実施。 小学校ハヶ岳自然宿泊体験教室を5年生20校で実施。（5年生2校は、興津と気仙沼でそれぞれ実施） 中学校1年の自然宿泊体験教室を9校でハヶ岳において実施。 小学校3校の5年生で実施予定の角田自然宿泊体験教室は、東日本大震災の影響により中止。ハヶ岳で代替実施。 小学校1校と中学校1校が気仙沼において自然宿泊体験教室を実施。 児童向けの学習ガイドを作成。	3（ある程度達成した）	自然宿泊体験教室を平成22年度に3校で先行実施をし、平成23年度から完全実施した。 東日本大震災の影響により、角田自然宿泊体験教室（3校）についてはハヶ岳で代替実施をしたが、気仙沼大島における自然宿泊体験教室は平成24年度から中学校1校で、平成25年度から小学校1校で実施し、復興を様々な形で支援するとともに自然体験学習や現地の学校との交流活動等を推進できた。 今後は、小中連携教育を踏まえ、学年の発達段階に応じた体験活動プログラムの充実に向けた取組みを進めていく。
4105	職場体験やボランティア活動等の推進	教育指導課	職場体験やボランティア活動などを学校や地域の特性に応じて取り組み、働くことの意義を理解したり社会に奉仕する心を育てたりする。	職場体験の事前・事後学習を工夫するなど充実が図られた。受け入れ事業所の確保に関しては各校で周知方法を工夫するなど努力している。	3（ある程度達成した）	各学校の工夫により、充実はしてきているが、全校5日間の実施には至っていない。今後事業所の開拓を含め、取組を継続していく。

事業番号	事業名	担当課	事業概要	25年度実績	22年度から25年度までの実績への評価	4年間（22年度から25年度）の事業総括
4106	読書活動の推進	教育指導課	読書活動を推進し、子どもたちに多くの言葉を身につけさせ、言葉にかかわる感覚を磨き、「考える力」や「表現する力」「想像する力」などを高めるとともに豊かな感性や情操をはぐくむ。そのため、各学校が読書計画を策定するとともに、学校図書資料の充実や学校図書館ボランティアの一層の活用を図る。	学校図書館担当者、学校図書館支援員等の連絡会において、各教科等における学校図書館の利用をさらに進めるよう研修を行った。また、図書館ボランティアの協力を得て、学校図書館の環境整備や児童・生徒に対する読み聞かせ、本の紹介等を積極的に行い児童・生徒が本と出会う機会を増やす努力をした。	3（ある程度達成した）	研修等を活用して、各教科の中での学校図書館の利用方法等について実践例をもとに紹介し、個々の質の向上を図ることが課題である。また、図書館ボランティアの数を増やし、環境整備等における協力を求める。
4107	放課後学習の支援（学習指導員の配置）	教育指導課	学習指導員を活用した放課後の学習支援を行うことにより、基礎基本の確実な定着を図る。児童・生徒一人ひとりの学力や学習意欲に応じた学習の機会を拡大するため、放課後の学習を支援する学習指導員を配置し、より組織的な学習支援を実施する。	授業の補充、各種検定に向けての準備等、個々の課題に対する取組を行ったために、学習指導員を配置した。	3（ある程度達成した）	参加人数が増えたこと、生徒のニーズに合わせた実施内容を設定したことなど、充実が図られてきた。今後も生徒の実態に応じた活動を継続する。
4108	夏休み中の学校の対応の充実	教育指導課	各区立学校が夏季休業日の短縮にも配慮しながら、児童・生徒の学習状況等に応じて創意工夫し、長期休業中の子どもたちの学びや活動を支援する。	全区立小・中学校で、児童・生徒の学習状況に応じた学習教室を5日間以上実施した。また、全小学校で、夏季休業中の水泳指導を7日間以上行った。	3（ある程度達成した）	全区立小・中学校で、児童・生徒個々の学習定着状況に応じた学習教室を実施した。
4109	①特別支援教育の推進 ②通常の学級に在籍する障害のある児童・生徒への支援 ③教職員への助言や支援	めぐろ学校サポートセンター	区立学校の通常の学級に在籍する障害のある児童・生徒への学習面や生活面の支援のため特別支援教育支援員の配置などを行う。また、通常の学級に在籍する障害のある児童・生徒への理解を深めるために、医学・心理・教育など専門家による教職員への助言や支援を推進する。	通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒に特別支援員を配置し、生活面・学習面の支援を行った。 小学校 全校 中学校 9校 延べ配置人員 122名 延べ配置時間 30,797時間 特別支援教育専門員等が区立幼稚園、小・中学校を前期・後期各1回定期巡回訪問した。 また、学校からの要請に基づき訪問を行った。 定期巡回訪問 全校（園） 対象人数 延べ679人 要請訪問 延べ 44校、 対象人数 延べ119人	3（ある程度達成した）	特別な支援を必要とする児童・生徒が増加傾向にある。目黒区では、平成24年度から東京都特別支援教室モデル事業を受託していることから、この事業との連携を図ること及び特別支援教育支援員の資質向上が課題である。
4110	特別支援学級の増設	教育指導課	一人ひとりの障害の状況に応じた適切な指導が実現できるように、対象児童・生徒数の推移を考慮し、情緒障害学級の増設を図る。	特別支援教室の拠点校として新たに、情緒障害等通級指導学級を3校（不動小、宮前小、東山小）に開設した。利用児童数は約1.5倍となり、より多くの発達障害等のある児童への指導が可能となった。	4（達成した）	平成22年度に、中根小学校に情緒障害等通級指導学級を開設し、地域の特別支援教育啓発につながった。平成24年度から、第七中学校に情緒障害等通級指導学級を開設した。中学校に通級指導学級を開設したことにより、発達障害等の生徒に対するきめ細やかな指導の充実を図ることができた。
4111	学校選択制の実施	学校運営課	区立小、中学校の隣接学校希望入学制度を実施する。	25年度は、駒場小、緑ヶ丘小、中根小、東山小を除き、隣接学校希望入学制度を実施した。	4（達成した）	一部の学校で、施設面から実施ができなかった。また、一部の学校で小規模化が顕著になるなど課題が顕在化した。

事業番号	事業名	担当課	事業概要	25年度実績	22年度から25年度までの実績への評価	4年間（22年度から25年度）の事業総括
4112	区立中学校の適正規模適正配置の推進	学校統合推進課	平成15年9月策定した「望ましい規模の区立中学校の実現を目指して」に基づき、統合した目黒中央中学校の評価・検証を行い新たな実施策を作成する。作成した実施策の実現に向けた取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 12月の区議会定例会において区立学校設置条例の一部を改正する条例が議決され、正式に大鳥中学校が27年4月に開校することが決定した。 教育計画、校章・校旗、校歌、標準服の検討など、27年4月の新校開校に向けた具体的な取組を行った。 南部・西部地区の中学校統合の具体的な検討に向けての基礎データの取りまとめや課題の整理を行った。 学校統合推進課だよりを発行し、統合の取組に関する情報発信に努めた。（東部・中央地区版：5回発行、南部・西部地区版：2回発行） 	4（達成した）	<p>目黒中央中学校に続く区立中学校の統合を進めるため、24年3月に区立中学校の統合方針（「望ましい規模の区立中学校の実現を目指して」）の改定を行い、区立中学校の魅力づくりの一つとして子ども達の教育環境の充実を目指して、区立中学校の統合に向けた取組を進めている。</p> <p>24年3月に改定した統合方針に沿って、第三中・第四中学校の統合を進め、27年4月からは統合新校である「大鳥中学校」が開校することとなった。</p> <p>今後は、引き続き、南部・西部地区の適正規模・適正配置に向けて、取組を進めていく必要がある。</p>
4113	情報教育の充実	教育指導課	個人情報保護に配慮し、子どもたちの情報活用能力をさらに高めるとともに、授業の多様化を図り情報教育を充実する。	<p>小学校3年生以上の各学級でICT支援員を活用した情報モラルに関する授業を実施した。</p> <p>中学校では、道徳、総合的な学習の時間、技術・家庭科の時間を中心に実施情報モラルの授業を実施し、ICT支援員の活用が広がっている。</p>	3（ある程度達成した）	多様化するICT機器を効果的に授業で活用する研修や情報モラルの研修が開かれ、多くの授業でICT支援員とともに授業展開する場面が見られるようになった。
4114	学校ICT環境の整備	学校運営課	① 区立小・中学校の児童・生徒の情報教育の推進を図る。 ② ICT機器を活用し、工夫を凝らした「わかる授業」の実践を図る。 ③ 区立小・中学校配備のコンピュータ機器リース期間満了に合わせ、機器の更新を行う。	（25年度実績） 機器入れ替え実施（区立小学校8校）	4（達成した）	情報機器の活用をしやすくするために、台数の適正数配置及び校内のLAN環境の拡充を行う。あわせて、機器選定や配置方法を工夫していく。
4115	学校環境改善	学校施設計画課	トイレ改修、校庭整備などを計画的かつ重点的に行い、児童生徒の学習環境と生活環境の改善を進める。	トイレ改修 区立中学校 1校	2（あまり達成できていない）	トイレ改修や校庭整備などの工事は、緊急財政対策により必ずしも計画的には進んでいない状況である。
4116	学校評価の多様化と充実	教育指導課	区立学校による自己評価を徹底するとともに、教育委員会で策定した学校評価の指針に基づき保護者や地域の声による学校評価を引き続き実施・公表し、学校運営に反映する。	学校だよりやホームページ、保護者会やPTA総会等で、学校評価の結果を公表するとともに、学校評価委員会の意見を学校評価のまとめとしてホームページに公表した。平成25年4月作成の「目黒区立学校学校評価ガイドライン」に添って学校評価を実施した。	3（ある程度達成した）	「目黒区立学校学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者評価・自己評価・第三者評価の成果と課題を確認するとともに、さらなる効果的な実施と活用について検討する。
4117	学校評議員の活用	教職員・教育活動課	平成14年度から全校で委嘱した学校評議員の知識・経験などを一層学校経営に活かす。また、活動の充実を図るため支援を充実する。	学校評議員の意見が学校評価委員会等を通じて次年度の教育課程に反映されるよう努めた。	3（ある程度達成した）	学校評議員制度のさらなる活用を図るため、学校評価委員会との関係や評議員の構成などについて検討していく。
4118	学校運営協議会制度の拡充	教職員・教育活動課	学校運営協議会制度を導入したモデル校の評価検証を行い、導入校拡大をはかり保護者・地域住民などと連携・協力した学校経営を目指す。	平成20年度にモデル校として指定した鷹番小学校と田道小学校について、23年度末でその活動を一旦休止し、24年度に事業総括・評価を行った。	3（ある程度達成した）	平成20年度にモデル校として指定した鷹番小学校と田道小学校について、23年度末でその活動を一旦休止することとし、24年度に総括・評価を行った。これまで学校運営協議会に関わっていた構成員・学校長・教育委員会事務局・第三者による評価等を行い、その結果や活動内容を「報告・講演会」や目黒区公式HP上で、区民に公表した。

(2) 幼児教育の振興

事業番号	事業名	担当課	事業概要	25年度実績	22年度から25年度までの実績への評価	4年間（22年度から25年度）の事業総括
4201	私立幼稚園への幼児教育研究委託	子育て支援課	私立幼稚園における幼児教育の充実と振興を図り、幼児教育の質の向上を図るため、私立幼稚園協会に委託して幼児教育研究事業を実施する。	グループ研究会 毎月1回、主任会（代表者） 年4回 講演会 年5回、研究報告会実施	4（達成した）	幼児教育の内容、方法についての研究活動を委託することにより、目黒区内私立幼稚園における幼児教育の充実及び質の向上に寄与することができた。
4202	家庭・地域社会と連携・協力した区立幼稚園運営	教育指導課	学校評議員を全園に設置し、地域との協力体制づくりを推進する。 ・保育内容や園運営等の情報の提供を推進する。 ・幼稚園の自己点検・自己評価を実施する。	保護者アンケートの実施、幼稚園・子ども園の自己点検・自己評価の実施により各園評価を保護者会等で公表した。 各園で委嘱した学校評議員の助言を園経営に活かすよう助言等いただき、園運営に活用した。	3（ある程度達成した）	学校評議員を全園に設置し、地域との協力体制づくりを推進してきた。 園の自己点検や自己評価等を公開し、地域の視点から意見や専門家の視点から助言をいただき、園の運営等の活用してきた。
4203	区立幼稚園における遊びを通じた教育	教育指導課	遊びを中心とした集団生活をとおして、健康な心と体、豊かな感性、人とかかわる力、道徳性の芽生え、知的好奇心等をはぐくむ。	幼稚園教育要領に基づく各幼稚園・子ども園の教育課程の適正な実施及び遊びを通じた協同的な学びの充実が図られた。	3（ある程度達成した）	日常生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して、心や体、社会性の育成を図り、就学に向けた基礎・基本の獲得を目指してきた。
4204	区立幼稚園の認定こども園への移行	学校運営課	就学前の教育・保育に対する多様なニーズへの対応、教育・保育の一体的な提供、保護者に対する総合的な子育て支援を推進するため、区立幼稚園2園（げっこうはら、みどりがおか）を認定こども園へ移行する。	みどりがおかこども園の運営を行った。 げっこうはらこども園への移行のため、園舎の改修工事及び備品整備を行った。	4（達成した）	計画に沿って区立幼稚園2園を認定こども園（幼稚園型）への移行を実施した。
4205	幼児と児童の交流活動	保育課	就学前の子どもたちが円滑に小学校生活に移行していけるよう、幼児と児童の交流活動を推進する。	教員間や保育士との円滑・適切な連携による滑らかな小学校生活への移行のための情報交換会等の実施や充実 子どもたちの育ちを支えるために保育要録の提出 就学前教育研修会の実施・ 保育参観、授業参観等の相互訪問の実施 小学生、中学生の体験保育での交流	3（ある程度達成した）	就学前の子どもたちが滑らかに小学校生活に移行していけるよう、幼児と児童の交流活動を積極的に取り組み実施した。 小学校の行事の参加で学校の理解を深めたり、保育園での小学生との交流は、お互いのことを理解する場になった。 教師との交流も積極的に少しずつ取り入れてきた。
4205	幼児と児童の交流活動	教育指導課	就学前の子どもたちが円滑に小学校生活に移行していけるよう、幼児と児童の交流活動を推進する。	交流をとおして幼児・児童との親睦を深め、互いに尊重する態度が見られた。また、学校生活に触れ、就学に向け幼児が自信をもつことができた。	3（ある程度達成した）	保幼小の教員間の連携を図り、交流の充実を努めた。 就学前教育研修会等を実施し、教員保育士間の情報交換等の充実を図った。
4205	幼児と児童の交流活動	めぐろ学校サポートセンター	就学前の子どもたちが円滑に小学校生活に移行していけるよう、幼児と児童の交流活動を推進する。	〈めぐろ学校サポートセンター〉公私立幼稚園教諭・公私立保育園保育士及び区立小学校教諭を対象とした、就学前教育研修会（8月）及び小1問題対応研修会を7月に開催した。 就学前教育研修会として、公私立幼稚園教諭・公私立保育園保育士及び区立小学校教諭が他区の就学前施設の保育参観及び協議等とおした研修を行うとともに、情報交換を行い小1問題の解決も視野にいれた保幼小の連携を深めた。	3（ある程度達成した）	公私立幼稚園教諭・公私立保育園保育士及び区立小学校教諭を対象とした、就学前教育研修会及び小1問題対応研修会を毎年開催しているが、引き続き就学前施設との情報交換や連携が必要である。

(3) 文化・スポーツ活動の振興

事業番号	事業名	担当課	事業概要	25年度実績	22年度から25年度までの実績への評価	4年間（22年度から25年度）の事業総括
4301	社会教育館、青少年プラザ等の子ども向け事業	生涯学習課	社会教育館、緑が丘文化会館、青少年プラザで青少年を対象とした自然体験・社会体験等の社会教育講座を実施する。	『あこがれの職業を体験しよう～パティシエとパン職人にチャレンジ!』、『春デビュー 新しい自分へ!』、『児童理科クラブ』、『中学生の自然体験ツアー』など10講座（74回）を実施した。参加者計292人。	3（ある程度達成した）	青少年プラザを中心に青少年を対象とした講座を実施した。
4302	体育館等の子ども向け事業	スポーツ振興課	①「子どもサポートプラン」を実施し、区立プールを中学生以下の子どもに対して無料で開放する。 ②各体育館等において、子どもや親子が参加できるスポーツ事業（教室講習会、スポーツ広場等）を開催する。	①5地区プール 延べ17,754人 駒場 3,206人、区民センター 6,138人、中央1,374人、南部 3,800人、西部3,236人 ②体育館、庭球場、野球場、サッカー場 延べ 97,858人	3（ある程度達成した）	子どもや親子が身近な場所で、運動・スポーツに親しむ機会として、区立プールでの「子どもサポートプラン」や区立体育館・野球場・庭球場等で各種子ども向けスポーツ教室を開催してきた。参加実績は、一定の水準に達していると考えており、子どもの心身の健全な発達・成長を促すため、今後も事業を継続する。
4303	指導者養成講習会	スポーツ振興課	区民のスポーツ・レクリエーション活動が安全で楽しく効果的に行なわれるようにするため、指導者として種目を越え、必要な理論・技術を身につける。 その中で、子どものスポーツ活動に資する内容を実施する。	①赤十字水上安全法基礎講習会 5回、延べ225人 ②障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会 8回、延べ324人	3（ある程度達成した）	子どもが安全で効果的にスポーツに楽しむことができるよう、「赤十字水上安全法救助員養成講習会」及び「障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会」を実施してきた。両事業とも、応募が増加傾向にあり、今後も事業を継続する。
4304	図書館の子ども向け事業	八雲中央図書館	①乳幼児サービスの充実 乳幼児の保護者にはじめて出会う絵本を紹介することにより、保護者の意識を高め、乳幼児の本への興味を育成する。 ②読み聞かせボランティアの育成 学校等で読み聞かせに取り組むボランティアを新規に育成するとともに、既存ボランティアの技術向上を図るため読み聞かせの基礎講座及びワークショップを開催する。 ③児童資料の拡充 児童資料の購入冊数を増やすとともに、小・中学校等への団体貸出の資料構成を一層充実させる。	①乳幼児サービスの充実 図書館内おはなし会546回（内、幼児向け458回 赤ちゃん向け88回） 小中学校等への出張おはなし会等23回 小中学校等からの図書館訪問等 19回 保健センターでのリーフレット・バッグ等の乳幼児への配布 1,440組 ②読み聞かせボランティアの育成 絵本の読み聞かせ基礎講座とワークショップ（初心者向け）（全3回）24名受講 上記のうち13名が大橋図書館での読み聞かせボランティア活動に参加 ボランティアメンバーを対象にフォローアップ研修（1日）8名参加 ③児童資料の拡充 図書購入の内訳では、対前年2%増の18%とした。 【今後の課題】 参加者の増えている赤ちゃん向けおはなし会についてもボランティア活動の対象にできるよう準備をする。子どもが本に親しむ環境づくりに努める。	3（ある程度達成した）	団体貸し出し、テーマによる資料請求への対応など、資料面での協力について取り組んできた。学校を訪問し出張おはなし会、ブックトークなど読書推進活動を行っている。図書館訪問、職場体験の受け入れも行っている。
4305	子どもに魅力のある芸術文化事業	文化・交流課	美術館・パーシモンホールで子どもに魅力のある事業の充実を図る。	【めぐろパーシモンホール】 ①パレット・プログラム（小学生～高校生・大学生までを対象に演劇・ダンスのワークショップ・発表会）を実施。69名参加。 ②アウトリーチプログラムを実施。22校で開催。1628名参加。 【目黒区美術館】 ①「トイの日」を2回実施。延べ331名参加。 ②アウトリーチを3回実施。207名参加。 ③こどものためのワークショップ、ファミリーワークショップを9コース実施。177名参加（内こども140名） ④ギャラリーツアーを18回実施。804名参加。	3（ある程度達成した）	子どもたちが、演劇・音楽・ダンスや美術など幅広い芸術文化に触れる機会を提供し、芸術文化への興味・関心を深めるきっかけをつくることのできた。事業のジャンルや規模については、引き続き実績や予算等を踏まえながら検討していく必要がある。

事業番号	事業名	担当課	事業概要	25年度実績	22年度から25年度までの実績への評価	4年間（22年度から25年度）の事業総括
4306	子どもへの伝統文化の継承	教育指導課	①伝統芸能継承者を区立学校へ派遣する。 ②小学生等を対象に将棋、囲碁、生け花、茶の湯等の教室等を実施する。	狂言、三味線、琴等地域人材を活用した授業を展開するなど各学校における特色ある活動を実施した。教育委員会から地域の狂言師を小学校13校に派遣し、狂言・能のワークショップを実施した。	3（ある程度達成した）	地域の人材を活用し、児童・生徒が伝統文化に触れる機会を多く設定することができてきている。今後は地域の人材から区の人材として範囲を広げ、他校でも実施していけるように環境整備を行っていく。
4306	子どもへの伝統文化の継承	文化・交流課	①伝統芸能継承者を区立学校へ派遣する。 ②小学生等を対象に将棋、囲碁、生け花、茶の湯等の教室等を実施する。	小学生や親子等を対象に、「伝統文化子ども教室」を実施した。日本舞踊、いけ花、茶の湯、親子マナー、狂言の5講座（計44回）を行い、計179名参加。	3（ある程度達成した）	子どもたちが様々な伝統文化に触れる機会を提供し、日本の伝統文化への興味・関心を深めるきっかけをつくることができ、芸術文化の振興に寄与することができたと言える。対象や内容については、実績等を踏まえながら、今後見直していく必要がある。